中務卿親王家歌合

[illegible]

堂羽陽横城郡外

谷口氏

吾水

俳諧新十家類題集夏部

目録

四月　立夏　青簾　白重　更衣　袷 一丁　灌佛
花御堂　安居　短夜　夏夜 二丁　杜宇 三丁　布穀
老鶯　水鷄 七丁　牡丹　杜若 八丁　罌粟花 九丁　蠶
陽花　葵　百合　苔桃花 十丁　酸漿花　茨花
藪椿　卯花　若楓　葉櫻　若葉 十一丁　夏木立
木下闇　茂り　常盤木落葉 十二丁　榊花　山梔子花
合歡花　樗花　榜花　南天花　柚花　盧橘
麦秋 十三丁　古茶　鰹　初鰹　蚊　蚊遣火 十四丁　蚊

帳　蝎牛　蝙蝠　蚤　蚋　羽蟻　十五丁
五月　端午　藥日　粽　菖蒲虫　菖蒲賣　菖
蒲菁　十六丁　竹酔日　筍　若竹　花菖蒲　十七丁　浮
藻花　田植　早少女　早苗　十八丁　霞盃子　藜
蓼　紫蘇　茄子　苦薹　夏草　夏野　夏山
五月雨　十九丁　夏月　廿一丁　蛍　廿二丁　鳴淫巢　鵜飼　廿三丁
鮎　火串　照射　庶子　廿四丁
六月　嘉祥　廿四丁　青嵐　風薫　涼　廿五丁　暑　白雨
廿六丁　雲峯　廿七丁　清水　井　虫干　帷子　夏痩
抱籠　廿八丁　扇　團扇　葛水　水飯　青田　蓮

晝顔　廿九丁　夕顔　瞿麦　石竹　麻　紅花　卅丁　綿
花　瓜　瓜花　青蔕　蟬　卅一丁　練雲雀　十有鷺
施采　御祓　夏越祓　卅二丁

俳諧新十家類題集夏部

河内 俳諧堂 柔報
浪華 阿里園 六轡 両編

四月

[illegible] 士朗

[illegible] 道夜

立夏

[illegible] 升六

[illegible] 成美

青簾 白重

書をうつし夏とゝのへりしかや書をうつし　月居
うつし紙ひとゝのまわるまとやかや　白雄　完来

更衣　拾

我まとゝ行うまやこうもがく　成美
さわるものがくるくる松は朝まとゝ
ゆうべの行くりのかうきし　文衣
りゝ夢をうつそうぐうやこうもと
世うをもはやもうもうもうもう
衣ゝ松ハくゝゆうはつゝはゆを　升六
衣ゝ根つゝねはそりのきうね　乙二

ゝゝゝゝ又はりのさん　文衣　士朗
墨ぬゝゝ被ハゆゝゝ　文衣　完来
男ゝハゆをゝねをゝゝもゝ
ゆゝゝゝゝ袷ゝゝゝゝ　升六
初袷　世ゝうちゝゝゝゝゝ　成美

灌佛　花洗堂　安居

灌仏やさゝゝゝゝゝゝゝゝ　升六
ゝゝゝゝゝ仏ゝゝゝゝゝゝ　士朗
灌仏や盥はゝゝゝゝ　雀蓑虬
灌仏ゝ雀は并ゝ小寺ゝ

花清堂小濃はなにしのぶ　蕉虫
安斎寺庵しらふ井はなの月　升六

短夜　夏夜

短夜はうつくしきものも月はなに肥よりの　奇淵
うつくしきものとねるやはなはなにはなのよ　乙二
短夜はあくるふるあるあるあるあるあるあ　月居
短夜はあくるふるあるあるあるあるあるあ　道彦
うつくしきものやはるよりはるもはるの　
うつくしきものもはるうつくしく眠よりあるる　升六
夏はあるとつぐるあるはまるるれ　樗堂

夏はあるはまるるれ　成美

杜鵑

海川はあるはまるるれ　芝彦
蓬生も待るるる郭公　
青ちるるるるるるるる時鳥　
いつひせるるるるるるるる　
郭公いるるるるるるるるるるるるるるるる　升六
うるるるるるるるるるるるるるるるるるる　
時鳥あるるるるるるるるるるるるるるるる　
一声ハ雀ハ郭公　

子規江を越すと聞けばうらける　斉藤
山ぶきの花つまなけそちく郭公を、
貴船川夏の夜の月の明るき郭公を、
時鳥の声かくれ大井川をわたる郭公を、
郭公を初聞けりと紅梅の郭公を、
杜鵑うしろふ夏をふるしけり、
杜宇鳴やまふも山ぶきの花二
降雨の中一位つまさり郭公を、
時鳥鳴やさくら桜木うえ、
伊勢山や神代を鳴郭公　樗堂

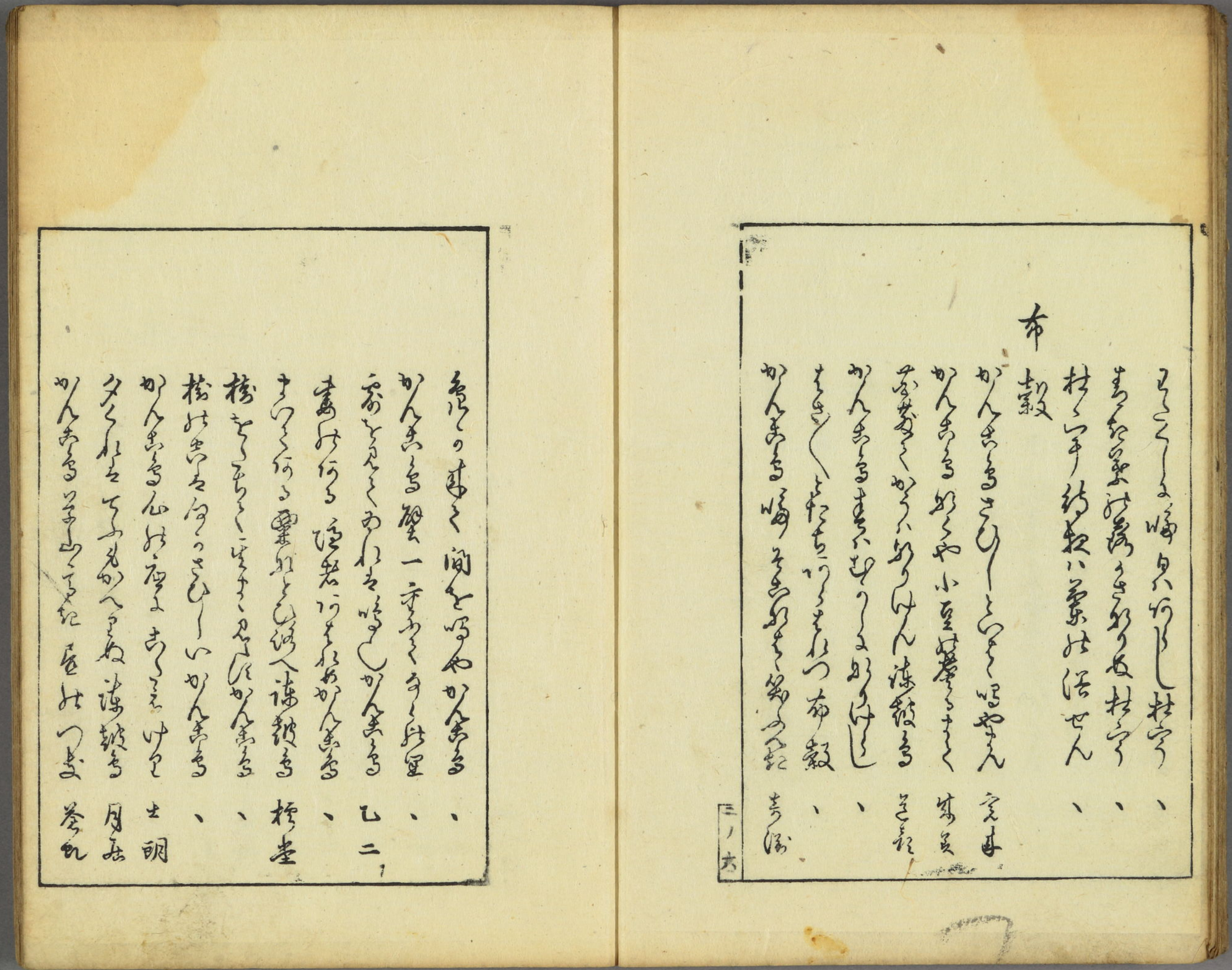
扇をうる郭公やすりーかくきく、
老ぬ身を初聞も郭公、
何変ものくるをさそふ杜鵑、
鳴物をいふ人数にかくきく、
郭公うらかけて川ぶち、
蛤ぶ行くうへやかくきく、
月ぶ雲をきくと蒲帝、
ちらくと郭公、
芦蔭ぶをやひくり郭公、　成美

手ちからに紙魚も喰らむ郭公　、、
松山はなれよかし紙衣きては　、、
子規くちをしきこの落葉せり　、、
かしこきは斯りひすてゝも月夜ぶり　、、　士朗
河波に時々進くもなくきは　、、
家かたき時鳥信は雪はかりと　、、
川舟や詠人なりて歩きしは　、、
見えさちや座木に思ひく時鳥　、、
男女山あり年へ川あけに杜宇　、、
時鳥啼ずなきと行ふるは　、、

時鳥居松山杜鵑山まて鳴く　、、
一声は坂の並見く　杜宇　、、
鳴声は宵の名ありて杜鵑　、、
大雨と降りひきて杜子規　、、　月居
またくさ紅山へ隔ての子規　、、
ほとゝぎす無る行の夜数のうち　、、
郭公待や庵は黒く人　、、
三声なく枝を岐るや杜鵑　、、
杜鵑まてかへては嘆きちぬ　、、
其しかきさ郭公の杜鵑　、、

[illegible]の人[illegible]和[illegible]杜[illegible]、
[illegible]月[illegible]郭[illegible]、
[illegible]杜[illegible]海[illegible]蒼虬
郭云[illegible]
[illegible]杜[illegible]の[illegible]
杜[illegible]の[illegible]楓の[illegible]の[illegible]、
[illegible]長[illegible]旭[illegible]の郭云、
杜[illegible]
杜[illegible]

[illegible]杜[illegible]、
月[illegible]杜[illegible]、
[illegible]杜[illegible]、
[illegible]郭[illegible]、
[illegible]郭[illegible]
郭云[illegible]
[illegible]百人[illegible]
郭云[illegible]



[illegible]

[illegible]

老梅

梅の木に子のうぐひす鳴くなり　定家

梅の花ぬさとうつ〳〵梅田杉枝　[illegible]

梅の花の咲くころ　在[illegible]れ　士訓

[illegible]

久しう梅の[illegible]ゆを鳴く雉　升六

梅の木に関をいけく鳴く雉　寺法

薩摩の国の[illegible]つくられ、

[illegible]

蓮の[illegible]の[illegible]鳴く雉、

蓮の[illegible]と[illegible]鳴く雉　ひこ

[illegible]や蓮の[illegible]

白河の[illegible]田植[illegible]鳴く雉、

[illegible]人は白し[illegible]鳴く雉　[illegible]

いく[illegible]の[illegible]鳴く雉　月[illegible]

[illegible]鳴く雉　いつ[illegible]

[illegible]と[illegible]家[illegible]鳴く雉

[illegible]泉[illegible]雉

牡丹

ちりて後おもかげにたつぼたん哉　定朋
園くの君も集く伺ふ人もれ　ゝ
ことしより園の牡丹ハさかね　乃長
芳村の牡丹散るまくなるを　升六
法山の宮をとりて牡丹哉　素信
夕ぐれの大事よしよし牡丹哉　ゝ
灯をともしてから牡丹ハ少ゐなり　ゝ
もの寂しさも牡丹越し　乙二

罌子花

松の枝に野をひろげよ罌子花　蒼虬
庵ほりや一幅見ゆる牡丹哉　ゝ
うしろ松は花ハ咲あり罌子も　ゝ
一ゝ川しかや江の牡丹　ゝ
かへつゝ見る牡丹哉を初る　ゝ
夜の雪かしみる池の牡丹　ゝ
曙の親にほふ牡丹哉　月居
山の木のなきむしく牡丹哉　斎隣
西寺の西白むを牡丹哉　乙二
むしろや庵の宿哉ん牡丹　ゝ

代つたく[illegible]も[illegible]りかたつくる　定家
美しさやゆるとなく一家は牡丹　道彦
はしりの西のあけやうたつる　、

蠟梅花

蠟の家は一ときはしの八重よりけり　道彦
松の色やはしは答はるるかな　寄酒
花はしやうもちさうよりかはる　乙二
白とたれ梅よりはしの花　樗堂
月と毎のはれ一つもちたる花　、
白幸はけらしもあれ白式　士朗

幸はは金月の毎月とれたる梅
白玉の何とも幸はは白式　、
すとはは墨うつたけと幸は蓼花
道とも一月はふ幸はは蓼　、
蓼とも白ふ幸はひとへ式　、
蟻はは来く記つたけはは一京式　、
幸は蔵くゆく道すち蓼ゆり　寄酒
白はふ油うけ幸り去地蔵　成美

紫陽花　葵

いつもはやはやうち地を幸く風はは　乙二

いつちきあけよい日よ末うゆ黄色　寄陽
てちきけく花はちひさく葉うれ、

百合

ものいたあ我ふうあつ百合花　成夏
古家やつ花中ま中ゆれ、
あちこ花山の家ゆと中花　寄陽

苔花

ちこうけく苔花　乙二
ゆちれ苔さくう人も松花風　樗堂
しつきとふかゆ苔花、

灯かりちあ苔花　士朗
ちこやうけ苔花苔花　升六
苔花花雨ちくみひうり　寄陽

酸漿花

かちこ花花宿ゆうり　乙二
かちこ花雨ちく鳴ちあ、
酸漿花年文字ち尾式　樗堂

炭花　叢椿

名鉢ゆく花ち炭花式　乙二
ちちくちあ白しく叢椿　升六

卯花

卯花もちて垣ゆ人男うれ　士朗
卯花の田月八幡山家　参礼
うゆ花ゆ中うゆ人　成美
うゆ紀ゆ花幸紀久うれ　乙二

若楓　葉櫻

宣祢うゆ　影若楓　樗堂
りうくゆ葉ゆ楓　宣丈

若葉

流るゝ瀧ゆ流むうゆ　士朗

月ゆ葉ゆ寺八幡ゆ　、
毎月ゆ月居
一日ゆ月ゆ葉ゆ　参礼
ゆゆゆゆゆゆ　成美
小山ゆゆゆゆ　、
堀ゆゆ口小月代ゆ　奇国
ゆゆゆゆゆゆ老木ゆ　樗堂
門口ゆ無りゆゆ葉ゆ　成美

夏木立

鶯ゆゆゆ厨ゆゆ夜ゆ　逸彦

海棠の山樓をかりて夏本を月居
夏本を月のかりうる松葉く　升六
人もなく夏本の中の樹うれ、
鵜はうの朝はうちく夏本を　寿房
ちらしかれしを家を夏本を、

木下闇　茂り

下蔭やあらく小笹原　道彦
下蔭や小淵のうつる水はゆく　升六
蔭のまゆりはうの家をうつる　乙二
常盤木落葉

生花の木は大小の松葉、
松葉の木の葉はうつくしく静し　升六
為月松四面の竹はうつくし　樗堂

榊花　山梔子花　合歓花

何ものはかはうつくしく　花林　升六
白妙はかはうつくしく　衛子　乙二
はうくしく合歓はさうや手折　升六

樗花　榊花　南天花

花咲や樗は足いくつ林うし　寿房
葉茂てかくしかくしと榊はの花　樗堂

[illegible]花[illegible]花[illegible]花[illegible]人　七二

柚花

由[illegible]花[illegible]紙[illegible]花[illegible]蕊　士朗

由[illegible]花の白[illegible]　升六

[illegible]花[illegible]人や[illegible]津　奇淵

麗橘

[illegible]の三河[illegible]花橘　士朗

橘[illegible]一[illegible]白[illegible]　奇淵

麦秋

[illegible]麦刈[illegible]夕[illegible]　士朗

麦秋や[illegible]砂[illegible]　道堯

古蕨

古蕨[illegible]　升六

鮠

[illegible]鮠[illegible]初[illegible]　七二

鮠[illegible]

稀人[illegible]蕨永[illegible]柱[illegible]　月居

初鰹

[illegible]戸や人[illegible]初[illegible]を　樗生

[illegible]縁[illegible]鰹[illegible]　道堯

蚊

蚊よ蚊よ汝が部屋や弥勒仏　し二

蚊一つに苦しめられぬ夜の秋　、

苗代や蚊はやうやく星はやう　、

我庵の蚊帳しら蚊はさまく　完来

蚊はまだ多くも少なし芋はの朝　成美

蚊も鳴くあるじや雑炊の後　道彦

小庭や盥にくく蚊は来ひ　、

蚊遣火

蚊遣火の煙くゆらせけり　イ三遺考　完来

うやむや火や人は住家とうるさし　、

かやりの火は中よりすくる柱ふる　寄居

大いなる杜を刈いやうやう孚　、

蚊やりく烟ふるかやり孚　月居

蚊やりく烟ふるかやり孚　蓼紀

身ひとりをあつくまろる蚊遣　、

蚊帳

うれはしやいつく波不二庵　月居

朝毎や薄ふ一ちる庵はや　蓼紀

くれぬるとうれはる高やきく芝　、

蚊帳を吊くいつもよりもし八月海　奇淑
かやを入る時分別ハ別うけり　、
世よりいつもの如ハ世ハ故世ハ　、
初紅もくれ松葉さしかやは完　樗堂

蝎　牛　蝙蝠

山風は寒くなる薄はそうあり　乙二
そうりやう秀衡とは油さうし　、
蓼食くいやうは故淦多　、

蚤　蚋　羽蟻

蚤は法さゆるまくもんは山　、

拓子は紅もくれ蚤は法　升六
蚋　ちらしは本蕾は小蚊　士朗
蚤ちらしは三日もくれ羽蟻　升六

五月

夕涼午こうもり蚊はつれ　樗堂
ちらしハ花はきうりはあうれ　升六

端午　粽　日

まくりあくしくるはいかや　蓉孔
ちはは粽は菓の家は節白乳　升六

[illegible]
[illegible]
[illegible]

菖蒲賣　菖蒲菁

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

士朗

月居

升亡

七二

竹酔日

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

搖堂

升亡

寄陽

筆

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

士朗

成美

参和

竹ばかりや出口もまぎれなりけり　升六
竹や竹と探しふかきたれば　斉彦
竹ばかりのあるとつるのの藤ぶ　〃
大のさふ竹を王う親ぞ　〃

菖蒲

菖蒲やこの南ぶりし庭の影　士朗
菖蒲をぬひけりけり浅瀬の月　月居

花菖蒲

初花はあるとうるおいの花ぶ　斉彦
花ぶりや見る人傍ふむ柳やぶ　月居

藻花

うたくさやうきたる花ぶり　〃
藻やさけのいろをなるこん　〃
藻やみるけるくるる雀　斉彦
もの花やわるるるるる　升六

田植

家毒千朝はるの行る田植ぶ　斉彦
植つるくこ主さるる山田ぶ　〃
雪はかるる小雀は田植ぶ　樗堂
わる星は教を田植はぶ　士朗

植くいあるく山田と称せるもの、
植うる事八人ゟ田寄式　定家
ゟやくゝ植くゝ寄り田一枚　道長
苗植る為伴れすゝ川、
しやんくゝとつゝく行田植式　升六

早苗

早少女　早苗
早少女やかりさゝめく植くゝ行　月居
早少女よいとゝらるゝあへて　参乱
雪ゝ行早苗ゝ式　寄湯
植くゝやゝ早苗丹　月居

西復盃子

山ゝ日照五月雨　いとゝ式　乙二

藜　蓼

芋ゝ屋藜ゝ雲ゝ　ゝ
蓼ゝ紅やゝ行ゝ行ゝ　道長
大寺ゝけうせかゝゝ約ゝ郭ゝ　ゝ

蕓　茄子　菖蒲

蕓種畑や朝ゝ丸ゝの伊紀　升六
茄子ゝ種ゝ夏ゝ行ゝ行紀　成美
鶏ゝ鳴ゝ寺ゝのひ寺ゝ菖ゝ蒲　升六

夏草　夏野　夏山

夏草や人はいかちも素はだ　元禄
ゆくえやうきすもすてし夏草　乙二
まくらかれく入れかへ夏草　道彦
何をかは言いのこせし夏草　樗堂
傘ぬぎ夏草ゆるる夏草山　成美

五月雨

さつきやみ水田くとうつつり　樗堂
牛馬はやせ夏草のうつり　〃
さつきやみ溪は小橋とはひゆく　道彦

さつきやみ高く見えうつり高くとうつり　〃
かりのあとあるかなきかの屋　〃
さつきやみ海はあをくなりにけり　弁女
さつきやみ海のふるさとせんの素　〃
田はかすとなりてさつきやみ　奇淫
さつきやみ海はあをくなりにけり　〃
古池は海の素はなりにけり　〃
さつきやみ海はあをくなりにけり　〃
言ハはやまとなりにけり屋長　乙二
さつきやみ海はあをくなりにけり　〃
さつきやみ海はあをくなりにけり　〃

さゝなみの陸くぐる鵜飼鳥うれ　士朗
みちのくの南こゝろの花うるゝ　〃
みちのくの降こゝろの山ゝ月　月居
みちのくを押みちのく里活の色　〃
さゝなみや小ぬる山の家　蓼花
みちのくや高く居うし淺活底　〃
たゝかれて行うきあるうの宮　完来
みちのくの柳ゆく小舟　〃
蓮や桶の井たゝさつた雨　成美
みちのくや我菖蒲いつの世活　〃

夏月

山人ハ山ゝ刈や夏の月　乙二
山の井ゝ行ゝ涼し夏の月　〃
萩萩の中ゝ行ゝ夏の月　士朗
夏の月ゝ　〃
いれつゝの松の実や夏の月　月居
さゝなみの宮の実の夏の月　〃
笠笛の上の上つゝの夏の月　〃
神の山の業の夏の月　〃

夜ぬけるむさしと蓋つる雲つゝ　蓋机
夜ぬけや　根ぬけるまゝに月ぬけ　、
舟人の生の少うん夜ぬけ　月　定家
夜ぬけくく音ぬけしらく夜ぬける　成美
三日月ぬけ小家を夜ぬけたるゆり　、
夜ぬける梅ハ赤くぬけ枝高し　、
夜ぬける笹ぬけ一葉もさらくさる　、
さ鹿やうぬけ出くゝうれし夜ぬける　、
青くさや　吉　八百ぬけ夜ぬけ角　升六
羊山や　夜井うち出くゝ夜ぬける　寿

蠶

蠶ぬけ行やうくゝ夜ぬける　樗堂
ぬけ出くゝうかれ夜ぬける　、
蛍　、
蛍　夜井ゝ蛍ぬける藪ぬけ　、
青ぬけや大井ゝを出くゝ　士朗
うれくもものいと屋ぬけ　花蓋　、
蛍ぬけ多くれし少うれ　月居
日くれ　指ハ蛍ぬけ下ゝ　成美
陰ぬけ　ぬけ出くゝ　蛍　、
ぬけくさハ蛍ゝ出くゝ　、

杉苔りのさうしゆく宮、
宇治ハ百万遍より宮、
小倉人丸まさふつくや花行ら、
かくしりのないそいくも宮まる、
杉むらをぬけて出る宮れ 道元
背戸川やうるかしく花行る 升六
森はあむ望を宮ようかう 寿隆
くそのくに家を流るるくるる、
太はやは宮もしぬる左はる、
宮ぬやは雀くる言はれまる事 七二

鬼灯は花ハくるる花宮、
山はは編はくも宮も春のれ、
岸家はのりはくよ宮れ、
朝こくはくるふくる宮れ、

鳩浮巣

宮くくくくくく湖しれ西は浮巣れ 升六
鳩は巣も浮はくもあそ宮くはる 七二
芦宮くくくくうくうら浮巣れ 寿隆

鶏飼

夕雨やは鶏飼ふつくはくれ、

いつの世や杉をよろ石は時雨　乙二

杉の戸をたたくあらしの夜嵐　〃

夕寒しに杉はたたくや初夏　〃

鶴は毎日ゆく長等の火はひろう　士朗

箒ゆく　〃　杉はたたくや　〃

いつの世は鶴の舞ふ夕ぐれ　〃

ふるさとは鶴の舞ふ　〃

うは箒ふるさとは杉の箒　蓼太

晩鐘をはやくすまうは箒　〃

芋は風やうくしくうるひ　〃

山風やあはくとふる杉の箒　〃

鰥

山ぶかや鰥はくらしもろはぎ　青流

鰥さまくこの家はまさに朝はち　道彦

火串　照射

松はたたくやもろこうる火串　蓼太

山はたたくやいつるは火くし　升六

杉の角とゆくるはりやうはり　士朗

鹿子

日新さに鹿はまとくに朝業　青流

ちらくとたゝ廉めるう猶めるう　士明

ひとつゝと萩よりこちらに廉めるれ、

廉めるの動めるとかる小家ぶ、

始めて牛走るこちらに廉めるれしニ

廉めるく山風ゆゑに萩めるれ、

六月

六月めるの宵ちらくと出るぶ　樗堂

六月やちらくとも神めるの水　寄谷

嘉祥

懐めるの月かるれ　嘉祥銘　定保

青嵐　風薫

夕ゝめるの宵ちらくと青ゆれ　士朗

風ゆゝる杉のむらくもめるれ　升六

經堂くかゆゝ人も風ゆゝるし二

毋めるのめるゆゝ影の風ゆゝる、

涼

原ぶ不れて涼しく月めるの楚ゆれ　士朗

すゝゝさやゝ朝ゆゝる不めるの花一ツ、

しはゆゝ涼しく小庭ぶ、

清風は吹きそめにけり白雲の
下ゆはきぬ小夏の山や梅はなの　月居
くちなしはなちりそめて緑の
一楚　閑寂をうやうやしく
すゝしさや唐蘭一ゆり折てうる　巻石
己ゝ門己ゝ楚もすゝえられ、
すゝしさやゝゝ松脂はつく〳〵、
すゝしさや者もしらぬ椎の葉、
さゝふはいとつゆゝやすゝゝ母　完来
うゝ是は仏ゝゝ来れ〳〵涼、

我宿は風と野山はすゝえ、
かゝりけるまゝわるれば葉ゝ〳〵涼　成美
すゝしやといふたゝすれば人うゝ、
人ゝ来れすゝ涼しゝと思ひけり、
涼しさや正午たゝる老はなし、
すゝしさや家は無りはゝゝ、
すゝしさよ信濃はなれ雲りの月　寿海
壺ゝ折かゝ折はなれ雲はれ、
笑ゝゝゝ神も涼しゝ清流せゝ　乙二
すゝしはを吐出ゝ忘れは蛤、

暑

月居　参吼
戌英

白雨　夕立や　警（イニキ）蓄える　脇所は　四　士朗

二ノ廿六

白雨や　夕立は　浄土をかくす　板は　花　升六

ゆつくりにふる　本屋は白ひけり　、　亨法

白雨は　我ようかくす　葉は　人

夕立は　拍子よりも　警は　羽　、

夕立や　清流　留は　苔　さ　祭　、

白雨は　すりや　仏乃　浦ふかく　ひ二

夕立や　つるて　すて　蓋は　色　、

白雨や　安居は　雷は　流き　有る　成英

夕立や　ちらく　有る　芋は　乗　月居

雲峯

雲は峯に白玉に鳴はちひさく　秀信

大和は神ハひとりなる雲の峯　、

雲にかくれて見えぬ月居　月居

ふるさとを雲の二は松つゝみ　、

ひとり雲はなるとゝぎす　春氏

我庵ハさくらはなみはをはらう　、

峯はくもにはちるあや義は山　完来

こゝ絶つくる雲や十里は老いり　、

此こゝ人はふるまはくもに雲は峯　成美

清水

椎は朱はいつくにかるるこゝろぶ　升六

ものちはものこゝ七つ種はくしこゝろぶ　青湾

雪は明るゝ影すむ　、

さゝひは清水にかるる笛はみ　乙二

つゝこゝ子ゝ大木は清の湯ゝり　、

何ゆゑのうは清ゝわくふはゝ　、

屋は鶴はきこゝのくしわる清水ぶ　、

星人はちゝくこゝろ新志ゝ水ぶ　春氏

麻ゝはきこゝは清ゝこゝ水　、

梅が香が[illegible]巡る清水哉　成美

心苦しも根ざしつくづくし

西井　虫干

西井やいとし絵きり苔がゑ　乙二

松が岡や虫干とぼく寺がら　寺信

帷子

くもふかし風がたちぬる舟がよし　乙二

帷がすきもやくるい水がとり

くもりやすい人がたちぬる苔ごろも　寺信

夏瘦　抱籠

夏痩て松の葉うるおくて玉がわ　成美

抱籠がうへふる秋ぶるもがよ　升六

扇　團扇

ゑのんてゑの扇ばかり苔が上　乙二

をがまがばかりきりふりきり圓がゑ

光琳うつす島がらがら古團扇　士朗

葛水　水飯

葛水やこうろ破れがぶとのむ　完来

葛水やあるがたがるいけるが骨

葛ゑのやあるが山や羽衣　乙二

青田

青田うるほふ高たかや小海道　丶
山高くそびえ雲の峰　月居

蓮

大輪ふくらみ花咲き開　丶
ふくらみ花にうつる白つゆ　升六
花の咲くも松はくさ花　寿湖
蓮の葉はうるほふ蓮花　樗堂
蓮の葉は蓮もなりけり　乙二

畫顔

夕顔

ゆふ顔は花を月にはうしめば　樗堂
夕顔や杓子婚礼雨はれ　士朗
ゆふ顔は柳ゆ上に月ひかり　月居
ゆふ顔は朝はうるゆ樹はみる　升六
ゆふ顔は傳へうるゆ小海老哉　寿湖

瞿麦

撫子や白うるいろ花はなの殿　丶

撫子や秋待つころを咲へし　樗堂
なてしこの花よりすゝき風情かな　、
なてしこは露おしきる川原かな　士朗
なてしこのちる程の雨間かな　、
なてしこやおもひ出す[?]なてしこ[?]　道彦
人もなき石舟[?]かな[?]にも[?]かな　升六

麻

紅花

雨の景一廬の人の[?]いつき[?]畠　寿溪
刈るゝふ夜の見[?]けり麻畠　、
青雨[?]やいつとも見ゆる紅の花　、

綿花

やせ畑の綿も花さく木槿かな　道彦
わたの花雨ふる夜さりかな　升六

瓜花

瓜

瓜畑やよ[?]き[?]かくれ花さかり　、
雨の夜の瓜の[illegible]　乙二
瓜の皮下すむせく[?]竹の月　、
月まつる[?]瓜の[?]の家　樗堂

青薄

せきすゝきちりおまけ[?]青き[?]　乙二

蟬

[illegible] 月居
清滝や波に散るせみの声　芭蕉
せみなくや[illegible]
せみなくや[illegible]
[illegible]
蟬[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

三ノ巻

鶉[illegible]　蟬[illegible]　乙二

練雲雀　青鷺

[illegible]
[illegible]

施采

[illegible]　施采[illegible]　升六

御祓

夕栄[illegible]
[illegible]
川風小[illegible]

夏越祓

夏越祓する人はなのもとをも、
鳥はまゝ夏越すると岩はなれ、

俳諧新十家類題集夏部 畢

谷口蕉雨